

根室国後間海底電信線陸揚施設（根室市）



根室村ハツタリと国後

島ケラムイ間を繋ぐ海底ケーブルの陸揚施設で一説によると昭和10年頃に旧通信省により設置されたとされています。

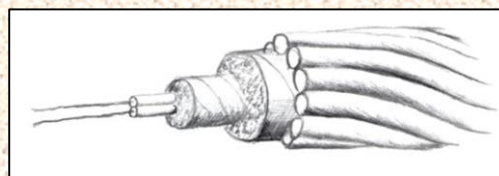
戦前、このケーブルは、根室から国後島を経由して択捉島の薬取村を繋いでおり、通信連絡手段として重要な役割を担っていました。

現在も根室市の西浜町に当時の建物が残されている（上記写真）。



〔根室管内と国後島・択捉島を結ぶ電信線〕

根室村ハツタリー国後島ケラムイ 約40km
国後島ケラムイー国後島白糠泊 約145km
国後島白糠泊ー択捉島丹根萌 約60km
択捉島丹根萌ー択捉島薬取 約210km



海底電線の構造

旧通信省千島回線陸揚庫保存会
久保浩昭氏作

ケーブルの布設作業は、明治二十

九年に日本と台湾間のケーブル布設のため、日本で最初の正式布設船として進水した英国製の「沖縄丸」が担いました。

ハツタリとケラムイ間に布設された海底ケーブル線は英国製で、その構造は、中心に二本の導線があり、導線の周りをゴムで覆い、その外側を約一センチメートルの麻のような繊維で覆っています。さらに外周に一本約五ミリメートルの鉄線十三本を用いて保護しています。

明治三十年代、英米の密漁船対策やロシア

の東漸政策への対策として千島の警備強化が必要となり、通信連絡手段の確保のため、北海道本島から択捉島薬取村までの電信線架設事業が明治二十九年から二カ年計画で実施されました。明治三十年の開線当初は「標津村三本木」国後島「ツエト崎」「国後島アトイヤ岬」択捉島「丹根萌」間を海底ケーブルで結んでいましたが、流水により両海底ケーブルが相次いで不通となってしまったため、明治三十三年に「根室村ハツタリ」国後島「ケラムイ」「国後島白糠泊」択捉島「丹根萌」間に海底ケーブルを布設し直しました。

根室国後間海底電信線陸揚施設（根室市）（その二）

丹根萌の電信線　く　択捉島出身の山田　勇さん　く

山田勇さんは、択捉島の丹根萌に住み、お父さん、お母さんときょうだい七人ぐらいで暮らし、お父さんの吉次郎さんとお兄さんの一郎さんは、二代続けて択捉島丹根萌で電信線の工夫をされていました。

お父さんは、通信省の線工夫で、電信線に不具合が出るとすぐに修理に出かけていたそうです。お父さんは元々、紗那で線工夫をされていたそうですが、紗那の郵便局長から、馬が好きなのだったら（畜産をやりたいのなら）丹根萌に行けと命令され、丹根萌で漁業や馬の飼育をしながら線工夫をしていました。馬は、多いときには二百頭、牛百頭規模の大きな牧場も営んでいました。

また、お兄さんの一郎さんは通信省の官舎で暮らしていたそうです。残念ながらこの写真は少し時代が古いものらしく官舎は写っていないとのことでした。

丹根萌の陸揚施設は長方形で、海岸側が狭く、奥行きが広がったそうです。室内は背が高く、下に巻き上げるケーブルがあり、上にはスイッチなどがついた機械があったそうです。山田さんは、試験などのスイッチだったのではないかと推測されていました。陸揚施設の建物は、元々はレンガ製で、後になってモルタルで補強されたそうです。また、根室の陸揚施設は周りに門があります。が、丹根萌の陸揚施設には門は無かったそうです。



戦前の択捉島丹根萌
（公社）千島歯舞諸島居住者連盟 提供

◆所在地地図

根室国後間海底電信線陸揚施設

【住所】

根室市西浜町

※ 根室駅から車で約5分

※ 根室駅から徒歩で約25分

